



《学習指導要領解説編抜粋》

…（略）予測が困難な時代、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すことが期待されている。…（略）

《第4次岐阜県教育ビジョンより》R6～R10

「ふるさと岐阜」で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人

【3つの育みたい力】

- 1 自立力 主体的に学び、考え、行動する力
- 2 共生力 つながり、認め合い、支え合う力
- 3 創造力 よりよい未来を築いていく力

《第4期岐阜市教育振興基本計画より》R5～R9

希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育

- 1 一人ひとりのよさが輝き、互いに認め合う心を育む教育
- 2 主体的かつ協働的な学びを通じて、未来への礎となる力を育てる教育
- 3 そのらしさを生かし、可能性を伸ばす教育
- 4 このまちと人から「生きる」を学び、社会参画をする力を培う教育
- 5 子どもに深く向き合う、あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり
- 6 新しい学びにつながる、教育システムの整備
- 7 子どもも大人も共に学び支え合う、家庭・地域の教育力の向上

《生徒の実態》

【全国学テ（質問紙調査）等の経年比較】

- 毎年、正答数平均は全国・県平均以上（国・数）
- しかし、R6年度は数学に対する苦手意識があった
- △自分のよさを自覚・夢をもっている生徒が多い学校であったが、R6年度は下降傾向が見られた
- 学習不振生徒が相当数いる

（学校評価から見る成果・課題）

- 生徒の中に小集団学習による授業が定着している
- いじめを許さない意識が高まっている
- 学校の取組に対し、生徒は一定の評価（R5AV3.51⇒R6AV3.43）をしているが、保護者は評価（R5AV3.12⇒R6AV2.93）が低い
- 生徒意識に挑戦よりも失敗を恐れる傾向がある

（印象として）

- 全体的に誠実な取組姿勢が見られる
  - 生徒意識に温言温動の精神が定着している
- ↓
- 仲間関係、信頼関係の構築に苦手意識
  - 一部生徒の自己肯定感の乏しさ
  - 不登校（傾向）生徒

《重点とする主な教育活動・キーワード》

1 個の学力向上

- ①探求する小集団学習・授業改善
- ②指導と評価の一体化

2 豊かな人間性の育成

- ①自己有用感・自己肯定感の感得
- ②失敗を恐れず挑戦する経験値の蓄積

3 教育相談活動の充実

- ①不登校生徒への計画的な支援・指導
- ②エールや他機関へのつなぎ、連携

外部との連携

- ・学校運営協議等の教育力活用
- ・PTA、エール等との連携、活用

めざす職員集団

- ・尊重し合い、成長をめざす同僚性の高い職員集団

《学校の教育目標》

志をもって「未来を切り拓け」

＜貫く精神＞  
**自学の精神** 常 → 志  
**温言温動の精神**  
 ＜目指す生徒のイメージ＞  
 ・様々な困難に向き合い、培った力を活用して課題を解決する生き方ができる生徒

《研究推進》

主体的に学に向かう生徒の育成～「小集団での探求」と「学びの実感を」通して～

仮説：小集団での探求+学力向上探求+個別最適な学びの選択⇒**学びの実感**

- 内容：①学習活動計画  
 ②学習活動の工夫

<学校の教育目標> 志をもって 「未来を切り拓け」  
 <貫く精神> 自学の精神 + 温言温動の精神 = 常 ⇒ 志の成就  
 <目指す生徒のイメージ> 様々な困難に向き合い、培った力を活用して課題を解決する生き方ができる生徒の育成

重点	具体的な教育活動	取組内容
重点1 個の学力向上	①探求する小集団学習を中心とした授業（授業改善）と生徒自身が行う学びの評価（学びの実感）	<ul style="list-style-type: none"> <li>探求する協同学習（小集団学習）により、学ぶ喜びを感じることができる教師の授業改善</li> <li>資質、能力の3つの柱に沿った生徒自身の自己評価指導</li> </ul>
	②アウトプット・プレゼン力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な ICT 活用による思考力の育成及び自身の主張を発信するプレゼン力の育成</li> </ul>
	③家庭学習の定着指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業と家庭学習がリンクした学びの充実</li> <li>家庭学習方法の指導</li> </ul>
	④その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な生徒個々の学力状況の分析把握（全国学テ、定期テスト等）</li> </ul>
重点2 豊かな人間性の育成	①自己有用感の感得（スマイル仏の深化、ホランテア体験活動の推進（R6実績…のべ約150人参加 R5…217人）	<ul style="list-style-type: none"> <li>より質の高い他者評価活動による自己理解</li> <li>貢献活動体験による自己実現</li> </ul>
	②失敗を恐れず挑戦する経験値の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が判断・選択・検証する経験をさせる</li> </ul>
	③総合的な学習の時間「ぎふMIRAI's」の推進、道徳・人権・進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ぎふMIRAI's」で人、ものに触れることによる自己実現</li> <li>道徳、人権、進路学習による非認知能力の育成</li> <li>「いじめを見逃さない日」「いじめについて考える日」の指導による人権教育の推進</li> </ul>
重点3 教育相談活動の充実	①不登校生徒への計画的な支援・指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員組織による不登校生徒の支援計画に則った支援・指導</li> </ul>
	②エールや他機関へのつなぎ、連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な連携機関活用と不登校生徒とのコミュニケーション推進</li> </ul>
	③FSの有効的な活用と不登校生徒の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的かつ受容的な生徒理解による不登校の未然防止</li> </ul>
外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校運営協議会・自治会連合会の教育力活用</li> <li>②PTAとの連携・エール、子相等関係機関の活用</li> </ul>	
めざす職員集団	<ul style="list-style-type: none"> <li>①尊重し合い、成長を目指す同僚性の高い職員集団</li> <li>②リーダーを中心とした、組織（指導部会）が機能した教育活動を推進する職員集団</li> </ul>	